

環境県民局 資 料	No. 2
--------------	-------

令和4年9月14日
課名 環境県民局環境政策課
担当者 課長 渡邊
内線 2910

「令和4年版 環境白書（環境に関する年次報告）」の概要について

1 要旨・目的

本県における環境の状況及び環境保全に関する施策の取組状況等に係る「令和4年版 環境白書（環境に関する年次報告）」を作成した。

この報告書を県議会9月定例会に提出するとともに、関係機関への配布や、県ホームページへの掲載により、広く県民に情報提供し、本県の環境についての理解を深め、環境保全活動の推進に活用する。

2 現状・背景

広島県環境基本条例の規定により、環境の状況及び施策に関する報告を県議会に提出しなければならないとされており、本報告書は毎年作成し、県議会9月定例会に提出している。

3 概要

(1) 報告対象

第5次環境基本計画の施策体系に沿った広島県の環境の状況及び環境の保全に関して講じた施策の取組状況

(2) 調査期間

令和3年度

(3) 報告結果

別紙「令和4年版環境白書（環境に関する年次報告）」の概要のとおり。

4 その他（関連情報等）

(1) 根拠条文

広島県環境基本条例

第8条 知事は、毎年、県議会に、環境の状況及び知事が環境の保全に関して講じた施策に関する報告を提出しなければならない。

2 知事は、毎年、前項の報告に係る環境の状況を考慮して講じようとする施策を明らかにした文書を作成し、これを県議会に提出しなければならない。

(2) 県ホームページ

「環境行政情報～環境に関する組織・計画・白書について～」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/b-index.html#hakusho>

令和4年版 環境白書（環境に関する年次報告）の概要

1 年次報告の構成

本書は2部構成で、第5次環境基本計画（計画期間：令和3年～令和7年度）の施策体系に沿った構成としている。

施策の進捗状況を把握するため、目標に対する指標とその達成率を記載している。

構成	項目	内容
第1部	広島県の環境政策	環境問題の推移，環境政策の方向性
第2部	環境の現状と県の取組	—
第1章	ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた地球温暖化対策の推進	省エネルギー対策等の推進，再生可能エネルギーの導入促進，カーボンサイクルの推進，気候変動を見据えた適応策の推進
第2章	循環型社会の実現	資源循環サイクルを拡大させた社会づくり，適正かつ効率的・安定的な廃棄物処理を支える社会づくり
第3章	地域環境の保全	良好な大気環境の確保，健全な水環境の保全・管理，化学物質による健康リスクの低減・土壌環境の保全，プラスチックごみの海洋流出防止対策，地域環境の維持・向上
第4章	自然環境と生物多様性の保全	自然資源の持続可能な利用，生態系の健全な維持管理
第5章	環境負荷の少ない社会を支える「人づくり・仕組みづくり」	環境学習・自主的な環境活動等の推進，環境関連産業の振興，環境配慮の仕組みづくり
付録	第5次環境基本計画における指標及びその進捗状況，環境関連事業費 等	

2 指標の達成状況

分野	計	達成 (達成率90%以上)	未達成 (達成率90%未満)	その他※
第1章「ネット・ゼロカーボン社会の実現」	20	13	2	5
第2章「循環型社会の実現」	11	10	1	0
第3章「地域環境の保全」	30	26	1	3
第4章「自然環境と生物多様性の保全」	10	5	3	2
第5章「人づくり・仕組みづくり」	8	7	0	1
計	79	63	7	9

※ 「その他」は，進捗状況を途中年度で評価することが難しく，最終年度に評価することとしている指標

- 目標を達成もしくは概ね達成となっている79項目中63項目については，引き続き，現状の水準を維持・向上できるよう，効果的な施策を実施していく。
- 未達成の7項目については，その要因分析をして，目標達成のために必要な見直し等を検討し，順次取り組んでいくこととしている。

3 分野別の概要

(1) ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた地球温暖化対策の推進（P5～）

○ 県内の二酸化炭素排出状況

本県の平成30年度の二酸化炭素排出量は、第3次広島県地球温暖化防止地域計画の基準年度である平成25年度に比べて8.8%減少している。部門別の状況を見ると、産業部門からの排出量が3,864万トンで、県全体の73.8%と最も大きな割合を占めている。

目標指標の達成状況については、産業部門・運輸部門・民生（家庭）部門の排出量のいずれも目標を達成している。

2050年ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けては、さらなる削減対策が必要であり、今年度から体制を強化した「広島県地球環境対策推進会議」において、省エネや再エネの推進とともに、カーボンサイクル等の取組を進め、環境と経済の好循環を図っていく。

二酸化炭素排出量と削減率（平成30年度）

（単位：万t-CO₂）

区 分	H25 基準年度		H30 実績		H25 からの削減率		県の削減目標 （基準年度：H25） （目標年度：R7）
	国	県	国	県	国 （%）	県 （%）	
産 業	61,886	4,094	54,015	3,864	▲12.7	▲5.6	H25比14%削減
運 輸	22,424	613	21,039	584	▲6.2	▲4.7	H25比11%削減
民生（家庭）	20,759	579	16,583	453	▲20.1	▲21.6	H25比22%削減
民生（業務）	23,727	405	19,835	288	▲16.4	▲29.0	H25比24%削減
廃 棄 物	2,990	45	3,079	41	+3.0	▲8.1	H25比6%の増加に抑制
合 計	131,787	5,736	114,552	5,231	▲13.1	▲8.8	H25比15%削減

【主な目標指標の達成状況】

指標項目（内容）	単位	基準年度値	現状値	目標値 （目標年度（R7））	目安※1	指標達成率※2	進捗状況
二酸化炭素排出量 （産業）	万t-CO ₂	4,094 （H25）	3,864 （H30）	3,531	3,859	99.9%	概ね達成
二酸化炭素排出量 （運輸）	万t-CO ₂	613 （H25）	584 （H30）	547	586	100.3%	目標どおり 達成
二酸化炭素排出量 （民生（家庭））	万t-CO ₂	579 （H25）	453 （H30）	449	525	113.7%	目標どおり 達成
二酸化炭素排出量 （民生（業務））	万t-CO ₂	405 （H25）	288 （H30）	309	365	121.1%	目標以上 達成
太陽光発電設備導入量	千kW	1,359	1,567 （R2）	1,669	1,411	111.1%	目標どおり 達成

※1 目安は、目標値を現状で達成すべき水準に按分した数値

※2 指標達成率は、「目安」と「現状値」の比

(2) 循環型社会の実現 (P29～)

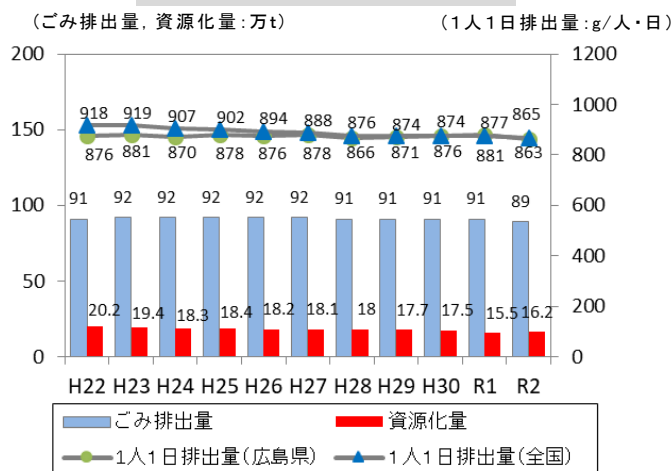
○ 廃棄物の排出状況

本県の令和2年度の一般廃棄物排出量は90.2万t、産業廃棄物排出量は1,349万tであり、ともに目標どおり達成した。

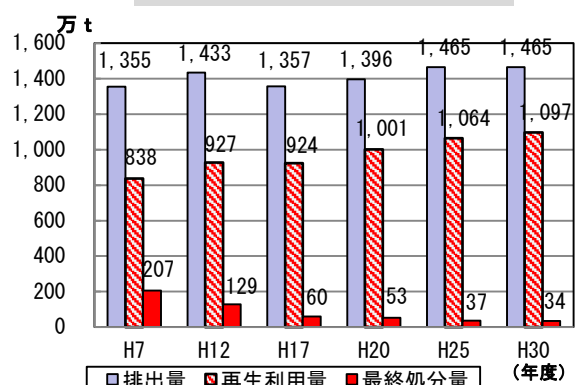
一方で、産業廃棄物の不法投棄(投棄量10t以上の事案)は、目標の2件以下に対して3件の発生があり目標に及ばなかった。要因として、産業廃棄物の排出事業者や処理業者の中に、未だ一定程度、遵法意識の低い事業者等が存在していることや、不法投棄の未然防止に資する電子マニフェストが普及の途上であること、早期発見・早期是正の取組などが十分に周知されていないことが挙げられる。

今後は、適正処理講習会の実施等による啓発を継続し適正処理意識の向上を図るとともに、令和3年度に開始したドローンによる不法投棄監視の強化や、衛星画像の解析技術を活用した不法投棄監視システムの開発・実装化を図ることにより、早期発見・早期是正を推進していく。

一般廃棄物の排出量の推移



産業廃棄物の排出量の推移



※5年毎に行う「産業廃棄物処理実態調査」の結果を基に算定
令和2年度の値は補完調査により算定したもの

○ 電子マニフェストの普及

本県では、デジタル技術を活用した資源循環の促進に向けて、マニフェスト(産業廃棄物管理票)の電子化を進めており、令和3年度普及率は58.5%で令和3年度目標を概ね達成している。

今後は令和7年度目標の普及率80%達成に向けて、排出事業者・収集運搬業者・処分業者の3者における普及拡大に取り組み、廃棄物トレーサビリティの強化を推進していく。

【主な目標指標の達成状況】

指標項目(内容)	単位	基準年度値(H30)	現状値(R2)	目標値(R7)	目安	指標達成率	進捗状況
一般廃棄物排出量	万t	92.9	90.2	89.1	91.8	101.7%	目標どおり達成
一般廃棄物最終処分量	万t	12.7	11.1	12.2	12.6	111.9%	目標どおり達成
産業廃棄物排出量	万t	1,465	1,349	1,453	1,462	107.7%	目標どおり達成
産業廃棄物の不法投棄件数(投棄量10t以上)	件	2.6 (H27~R1平均)	3(R3)	2	2.4	75.0%	未達成
電子マニフェスト普及率	%	51.5	58.5(R3)	80.0	59.6	93.3%	概ね達成

(3) 地域環境の保全 (P50～)

○ 大気汚染物質等の環境基準達成状況

本県では、11市3町に設置した37局の大気測定局における常時監視システムにより、大気汚染状況を常時監視している。令和3年度の測定では、二酸化硫黄や二酸化窒素などの大気汚染物質は、全ての測定局において環境基準に適合するなど、ばい煙を発生する事業場への立入検査等の監視・指導等により、大気汚染物質指標の目標を全て達成しており、良好な大気環境が確保されている状況である。

○ 公共用水域等の環境基準達成状況

本県では、河川 82 水域、海域 14 水域、湖沼 8 水域の公共用水域及び地下水において水質汚染状況を常時監視している。令和3年度の測定では、人の健康の保護に係る有害物質については、全測定地点で環境基準を達成しており、健全な水質環境が維持されている状況である。

一方で、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として設定されている海域 COD 項目の環境基準達成率について、令和2年度と比較して達成率が減少し、令和3年度目標が未達成となった。要因としては、県西部及び東部海域の水域における陸域（河川、工場、事業場等）や外海からの有機物の流入、内部生産等による COD 濃度上昇が考えられる。

今後は、広島県水質総量削減計画に基づき、工場・事業場等からの排水等について監視・指導を適切に実施するなど、汚濁発生源に係る対策を推進していく。

○ プラスチックごみの海洋流出防止対策

令和3年度に実施した県内海岸漂着物実態調査によると、県内海岸に漂着する約 48 t のごみのうち、3 品目（ペットボトル、プラスチックボトル、レジ袋）の占める量は 5.1 t であり、令和3年度目標を達成した。

引き続き、2050 年までに新たに瀬戸内海に流出するプラスチックごみの量をゼロにする「～みんなで守ろう、ミライへ、美しく恵み豊かな瀬戸内海を～2050 輝く GREEN SEA 瀬戸内ひろしま宣言」の実現に向け、「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム（略称「GSHIP(ジーシップ)」）」において、参画企業と連携した、ワンウェイプラスチックの削減やデポジット制などの循環的利用の高度化に向けたモデル事業の実施及びごみステーションや空容器回収 BOX 等における漏洩防止のモデル事業の実施など、海洋プラスチックごみ対策に取り組んでいく。

【主な目標指標の達成状況】

指標項目 (環境基準達成率)		単位	基準年度値 (R1)	現状値 (R3)	目標値 (R7)	目安	指標達成率	進捗状況
大気	二酸化窒素	%	100	100	100	100	100%	目標どおり達成
	浮遊粒子状物質		100	100	100	100	100%	目標どおり達成
水質	河川 BOD		92.7	93.9	環境基準の達成率の向上を図る	92.7	101.3%	目標どおり達成
	海域 COD		42.9	21.4		42.9	49.9%	未達成
	海域全窒素		88.9	88.9		88.9	100%	目標どおり達成
	海域りん		100	100	100	100	100%	目標どおり達成
	地下水		81.6	87.8	環境基準の達成率の向上を図る	81.6	107.6%	目標どおり達成
ダイオキシン類環境基準達成率(大気・公共用水域・土壌)				100	100	100	100	100%
3品目(ペットボトル, プラスチックボトル, レジ袋)の海岸漂着物量		t	8.4	5.1	7.9	8.0	136.3%	目標以上達成

(4) 自然環境と生物多様性の保全 (P92～)

○ 自然資源の持続可能な利用

自然公園では、生物多様性の確保など自然環境の保護を図るとともに、県民が自然とふれ合う場として適正な利用を推進している。自然公園利用者数は、令和元年度まで概ね目標を達成していたが、令和2年度は大幅に減少し、令和3年度も利用者数の増加には至っておらず、目標未達成となった。要因としては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による外出制限の影響で利用者が減少したことなどによる。

引き続き、新型コロナウイルスに対する感染防止対策を徹底するとともに、新しい生活様式に適応した自然とふれ合う場として、安全で快適な自然公園や野外レクリエーション施設を運営し、県民の皆様の利用促進や、自然環境保全や野生生物保護への理解を深めていく。

自然公園等の利用者数

(単位：千人)

区 分	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
国 立 公 園	7,186	7,732	8,032	7,089	7,367	3,524	3,062
国 定 公 園	1,118	1,039	995	918	870	595	619
県 立 自 然 公 園	513	503	521	357	423	426	408
その他野外レクリエーション施設*	1,092	1,031	1,062	952	981	677	847
合 計	9,909	10,305	10,610	9,316	9,641	5,222	4,936

※ その他野外レクリエーション施設：県民の森、もみのき森林公園、県民の浜、中央森林公園、中国自然歩道、県自然歩道

○ 生態系の健全な維持管理

県内に生息する1万6千種を超える野生生物のうち、絶滅のおそれのある希少な野生生物について、生息・生育状況等の現状を把握するとともに、野生生物に関する情報の提供を行うため、レッドリスト(絶滅のおそれの程度に応じて設定したカテゴリーに分類評価したリスト)に選定した種について取りまとめた「レッドデータブック」を令和4年3月に改定した。

引き続き、生物多様性保全の重要性への理解促進と、多様な主体の参画による保全活動を推進する。

絶滅のおそれのある野生生物の種の選定状況(令和3年度)

分類群	県内 種数	カテゴリー別種数					選定 種数
		絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危 惧	情報不足 等	
種子植物・シダ植物	2,928	4	111	153	151	38	457
コケ植物	719		37	9	5	3	54
藻類	1,258		1	2	13	16	32
地衣植物	382	1	3	5	7		16
菌類	700		7	9	26	0	42
海藻類	約200	10		3	1	1	5
哺乳類	43	2	7	5	8	1	23
鳥類	302	1	6	9	17	14	47
爬虫類	16			1	1	4	5
両生類	19		1	8	4	1	14
魚類	548	2	9	9	21	16	57
昆虫類	8,318	15	43	48	89	36	231
貝類	708	16	40	25	22	27	130
その他無脊椎動物	412		4	4	21	14	43
合計	16,553	41	272	288	389	171	1,161

【主な目標指標の達成状況】

指標項目(内容)	単位	基準年度値 (R1)	現状値 (R3)	目標値 (R7)	目安	指標達成率	進捗状況
自然公園利用者数	千人	9,642	4,936	当初値より増加	9,642	51.2%	未達成

(5) 環境負荷の少ない社会を支える「人づくり・仕組みづくり」(P105~)

○ 環境学習・環境活動の推進

県では、教職員を対象にした環境教育研修の実施や教材・プログラムの作成支援・提供を行うなど、学校における環境学習の支援を行うとともに、県民の自主的な環境保全活動を促進し参加機会の拡大を図るため、各地で行われている取組に関する情報提供や、地域で緑化活動や美化活動などを行っている団体等の活動支援、環境学習講師の派遣など、環境保全活動の拡大に向けた支援を行っている。

環境学習講師派遣学習会の受講者数については、令和3年度から新たに追加した学校におけるSDGs学習会への講師派遣により、令和3年度1,295人と目標値(700人)を大きく上回っており、今後も感染防止対策を徹底した上での学習機会について情報発信する。

○ 環境配慮の仕組みづくり

環境問題に関心の深い企業や団体、行政などが連携して環境にやさしい地域づくりを協働して進めることなどを目的として設立されたひろしま地球環境フォーラム等と連携して、講演会やセミナー等を行った。

目標指標の達成状況については、「ひろしま地球環境フォーラム会員のうち、SDGsと関連付けて事業活動を行っている事業者の割合」「環境経営やSDGsに関するセミナー等受講事業者数」ともに目標以上を達成した。

環境に配慮した事業活動への要請は年々高まっており、引き続き事業者に対して、環境経営やSDGsについての情報発信を行い、連携して環境に配慮した取組を促進する。

【主な目標指標の達成状況】

指標項目(内容)	単位	基準年度値(R1)	現状値(R3)	目標値(R7)	目安	指標達成率	進捗状況
環境学習講師派遣学習会の受講者数	人	113(R2)	1,295	700	700	185.0%	目標以上達成
ひろしま地球環境フォーラム会員のうち、SDGsと関連付けて事業活動を行っている事業者の割合	%	29.7	53.8	75	44.8	120.0%	目標以上達成
環境経営やSDGsに関するセミナー等受講事業者数	者	65(R2)	107	80	70	152.9%	目標以上達成